

令和8年度 小樽市立潮見台中学校 学力向上改善プラン

1 生徒の実態

◆ 昨年度において1年生は、チャレンジテスト、定期テスト、確認テスト等の結果から、国語・数学とも目標値を上回ったものの、部分的に学力に課題が見られることが確認された。特に国語では「書く力、読みとる力、情報を活用する力」、数学では「一次関数の増加量の理解、筋道を立てた説明」を伸ばす授業を充実させ学力向上を図る必要がある。

2年生は、標準学力調査の結果から見ると、国語では目標値を若干上回ったものの、他全体的に課題が見られることが確認された。特に「書く力、読みとる力、情報を活用する力」を伸ばす授業を充実させ、国語では「自分の考えや根拠を明らかにして文章を書く力」、数学では「データ活用、資料をもとに読み解く力」、英語では「聞く・読む・書く力」の育成に力を入れ、情報読み取り、場面把握、自分ごととして考え、人に伝える力を育成する場面を設定した授業を構築する必要がある。

以上のように、各種テストの結果を領域別で見ると、学年によって定着の度合いが異なり、小学校の習熟度度合いの分析から、組織的な授業改善、個々に対応する指導支援体制、家庭学習奨励の充実を図り学力向上につなげることが必要である。

◆ 全国学力・学習状況調査及び学校生徒質問紙から、「平日時1時間以上家庭学習をする」の項目についても53.9%と数値が大きく低下しており、生徒との自己調整力を育成するツールとして、潮中シートをより有効に活用できるよう継続して取り組んでいく。また家庭と連携して望ましい生活・学習習慣確立、家庭学習奨励を図る工夫と手立てが必要である。また同調査における「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の項目における肯定的回答は92.3%と大きく伸びており、話し合いや自分の考えを伝える場を引き続き多く設定していく。子どもが失敗を恐れることなく、安心して学び生活できるあたためた魅力ある教育環境づくりを目指していく。

2 学年ごとの定着目標（数値目標）

<国語科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテストで道内平均を上回る。
2年	・標準学力調査で目標値を上回る。
3年	・全国学力学習状況調査で全国平均を上回る。

<数学科>

学年	定着目標
1年	・チャレンジテストで道内平均を上回る。
2年	・標準学力調査で目標値を上回る。
3年	・全国学力学習状況調査で全国平均を上回る。

<学習・生活習慣（家庭学習等）>

学年	定着目標
1年	・家庭学習を全くしていない生徒の割合を3%以下に、家で計画を立てて学習している生徒の割合を85%以上にする。（学校評価生徒アンケート結果前期後期平均）
2年	
3年	

3 目標を達成するための具体的な方策

（1）基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①学習シラバスの活用（学習ゴールの明確化）
- ②諸検査からの習熟度分析と手立ての実行
- ③計画表を活用した学びと生活の自己調整力の向上（潮中シート）
- ④読書活動の充実（NIE タイム推進＝言語活動能力育成）
- ⑤放課後学習や長期休業中の補充的学習による個別指導の実施。
- ⑥チャレンジテスト、確認テスト等活用による習熟度チェック。
- ⑦学校図書館の三機能（読書・学習・情報）の充実（学校司書、図書局連携と充実）
- ⑧研究推進と教科部会の活用（効果的な評価・改善）

（2）確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①学習・生活ルール「しおみだい」の共通指導
- ②言語活動を基盤とした対話的学びの場面設定と生徒指導機能を生かした授業の推進。（人間関係・絆・居場所づくり）

③教科部会の充実と組織的な授業改善体制の確立。（小中連携）

④放課後学習（学年、全体）、長期休業中学習会の充実

（3）家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①家庭学習につなぐ授業の構築
- ②基本的生活習慣の定着に向けた保護者、地域との連携（CS）（地域ぐるみで子どもの学力・体力・生活力を育む環境づくり）
- ③スマート7の取組等を通した情報モラル教育、人権教室等の実施を通した望ましい生活習慣等の啓発、社会教育とのつながり

4 実施計画

年月日	計 画 内 容
R 8 年	
4 月	・学習ガイダンスの実施、学びのルール確認 ・（前年度等）全国学力・学習状況調査の問題の実施 ・チャレンジテスト（前年度問題）の実施 ・小樽市小中学校学力向上検討委員会作成「確認テスト」（前々年度問題）実施 <トライタイム開始>
	○R8 全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自校採点
	○標準学力調査実施
	◇教育ビジョン説明（保護者会：校長） ◇第1回進路説明会（保護者会：3 学年） ・朝読書・朝学習の実施（通年） ・昼休み・放課後のサポート学習の充実（通年）
5 月	○標準学力調査結果分析
	○学力向上改善プラン決定、実行
6 月	◇学習評価説明会（保護者会）
7 月	・チャレンジテスト（1 学期末問題）の実施 ・学校評価（教員自己評価①）の実施 ・長期休業中のサポート学習の実施 ・学校評価①の実施 <トライタイム充実>
8 月	○R8 全国学力・学習状況調査結果分析
9 月	
10 月	○保護者への調査結果の説明
	○学力向上改善プランの評価・改善
11 月	・これまでの（前年度等）全国学力・学習状況調査の調査問題の実施
12 月	・学校評価②の実施 ・チャレンジテスト（2 学期末問題）の実施 ・長期休業中のサポート学習の実施
R 9 年	
1 月	・小樽市小中学校学力向上検討委員会作成「確認テスト」（前々年度問題）の実施
2 月	・次年度の学校経営改善・経営方針案の提示 ・学力向上対策会議 <学習専門委員会ふりかえり>
3 月	○学力向上改善プランの評価・改善 ○新学力向上改善プランの作成

6 評価方法

- （1）学力向上推進チームによる検証
 - ①生徒・職員アンケート等各調査結果の活用。
 - ②研究部、各教科部会による分析と評価。
- （2）校内研修による検証
 - ①生徒・職員アンケート等各調査結果の活用。
 - ②公開研究会、校内研究授業の充実と指導主事等からの指導助言。
- （3）望ましい学習習慣・生活習慣を形成する取組
 - ①「生徒アンケート」「保護者アンケート」による数値的評価。
 - ②生徒の実態把握と保護者会での協議
 - ③CSを通した地域・保護者との連携と学校評価